

スポーツと経済

今回の学習内容

現代におけるスポーツは「する」「見る」「支える」という多様なかわり方のもとで、さまざまなスポーツ産業を発達させてきました。これらのスポーツ産業は経済活動に大きな影響を及ぼしており、スポーツと経済は切り離すことができない状況にあるといえます。

スポーツと経済の関係について、オリンピックを例にしたスポーツの経済効果やスポーツに関連したさまざまな職業の紹介、そして今後、スポーツ産業はどのように発展していくのかについて考えていきましょう。

講師

杉山正明

壇蜜 先生

(学習メモ執筆)

スポーツの経済的効果

スポーツが経済活動に及ぼす影響を、「スポーツの経済波及効果」といいます。これには、スポーツを「する」ことによる影響と、スポーツを「見る」ことによる影響の2つに分けることができます。具体的には、「するスポーツ」の場合はウエアやシューズ、専用の道具などの消費活動や施設の使用料、試合への参加費などがあります。

また、「みるスポーツ」では、観戦のためのスタジアムの入場料や交通費や飲食費などがあります。特に、オリンピックなどにおいては「スポンサーシップ」と「放送権料」が大きな経済波及効果をうみ出しています。

スポーツに関連した職業

「スポーツに関連した職業」は、「スポーツをする職業」と、「スポーツを支える職業」に分けることができます。「スポーツを支える職業」は「スポーツをする人」と、「見る人」を支える仕事があります。

「スポーツをする職業」としては、プロスポーツ選手がその代表格です。また、「スポーツを支える人」を支える職業には、スポーツトレーナーとか栄養士、試合を支える審判、ウエアや用器具などの製造業にかかわる人、スポーツ施設などの建設業にかかわる人がいます。

そして、「スポーツを見る人」を支える職業には、テレビ中継などの放送に関わる仕事やスポーツの情報を伝える、新聞社や出版社で働く記者や、カメラマンなどの職業もあります。その他にも広告代理店や旅行代理店なども挙げられ、時代のニーズに応じて多種多様なものになってきています。

拡大するスポーツ産業

「スポーツ産業」は、グローバル化にともない、いまや 15 兆円規模産業と言われるものに発展しています。中でも、今後飛躍的に伸びる可能性がある産業として、「スポーツツーリズム」が挙げられます。これには、オリンピックやワールドカップを見るために旅行する「観戦型スポーツツーリズム」やホノルルマラソンとか海外でスキーをするなどのための「参加型」、スタジアムやアリーナなどの施設を訪れるための旅行である「訪問型」があります。

近年では、「商品ライセンス」とう分野も盛んです。スポーツ選手の写真やイラスト、名前などを使った商品を開発販売する「権利」を売ることをいいます。いわゆるスポーツの権利ビジネスのことです。このように、スポーツとビジネスを結びつけることで、スポーツ界はより活性化するとも考えられていますので、よりよい形でスポーツ産業が発展していくことがのぞまれます。

■参考資料■

1. スポーツ産業と国民とのかかわり

スポーツ用品の購入	スポーツ施設の使用料
スポーツ観戦	スポーツの習い事（スクール費用）
テレビの放送権料	広告
イベント	交通費
飲食費	グッズ費
プロ選手への報酬・給与	クラブ・球団運営費 など

2. スポーツに関連した職業

●「するスポーツを支える職業」

保健体育教師	中学校・高等学校保健体育教師
スポーツインストラクター	水泳インストラクター、ゴルフティーチングプロ など
体育指導員	地域の体育協会
健康運動指導者	健康運動実践指導者
スポーツトレーナー	アスレティックトレーナー、理学療法士、はり・灸師 など
審判員	プロ野球審判員、サッカー公認審判員 など
栄養指導者	管理栄養士、スポーツ栄養士 など
スポーツ用具開発者	各スポーツメーカー
スポーツエージェント	選手エージェント、弁護士 など

●「見るスポーツを支える職業」

テレビ放送局	ディレクター、アナウンサー、テレビカメラマン など
インターネット放送	ディレクター
ラジオ放送局	ディレクター、アナウンサー など
新聞社	スポーツ記者（ライター）、スポーツカメラマン など
出版社	スポーツ関連雑誌編集者、スポーツカメラマン など
スポーツ施設	公共スポーツ施設及びプロリーグ施設などの運営
旅行代理店	スポーツ観戦ツアーの企画、添乗